

平谷村『水循環・資源循環のみち2022』構想

令和4年度策定

平谷村は、村の総面積の95.3%が山林で占められ、なだらかな山々と古くからのたたずまいを残す大自然に囲まれた山里で四季折々の変化も豊かな農山村として歴史を重ねてきました。

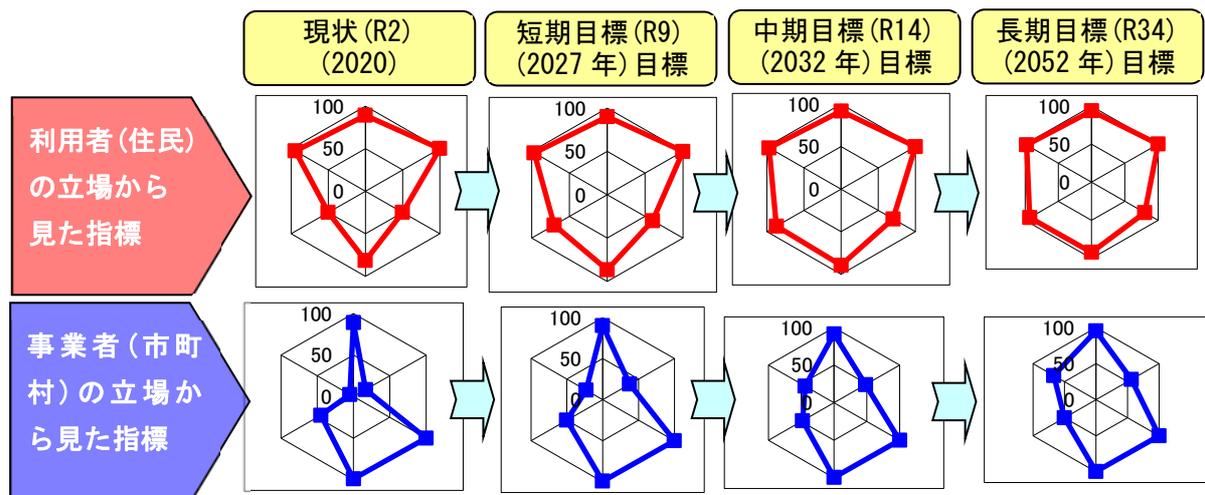
この自然環境や水環境を後生に残すため、平成12年から生活排水対策（下水道、農集排、浄化槽）を進めてきましたが、人口減少や高齢化の進展など社会情勢の変化への対応が求められています。

また、生活排水施設は、機能の維持や利用者である住民の皆様の利便性や快適性を持続していくため、今後とも適切な維持管理のもと運営を行っていく必要があります。

このため、2010年から50年先を見据えた経営計画に基づき、処理場の統合、汚泥処理の集約化、維持管理の効率化等を検討し、生活排水施設の持続的な運営と良好な水と資源の循環を目指すため、令和4年度に、従来の構想を見直して、30年後までの生活排水対策の構想である平谷村「水循環・資源循環のみち2022」を策定しました。

わが町の指標と目標

平谷村では、構想の長期目標年度である30年後の令和34年度に向けて、利用者（住民）の立場から見た指標と事業者から見た指標として、県下の統一指標の他、当村の現状を把握した上で、オリジナル指標を設定し、短期、中期、長期の目標を以下のとおり設定しました。



■利用者（住民）の立場から見た指標 ※指標の数字はR2→R9→R14→R34を表す。

(1) 暮らしの快適さと安全を表す評価項目

A 快適生活率(%)：97.0→94.2→94.2→94.2 【県下統一指標】
衛生的で文化的な生活を、農集・浄化槽の水洗化率で表しました。

① 高齢者人口普及率(%)：94.2→94.2→94.2→94.2
快適な生活を送っている（水洗化）高齢者を表しました。

(2) 環境への配慮を表す評価項目

B 環境改善指数(%)：48.0→73.0→76.0→98.0 【県下統一指標】
水環境が改善したと感ずる指数を表しました。

② 放流水基準に対する放流水質率：90.7→91.7→92.9→98.0
放流水質基準に対する実際の放流水の水質状況を表しました

(3) 生活との関連性を表す評価項目

C 情報公開実施指数(%)：100.0→100.0→100.0→100.0 【県下統一指標】
農集、浄化槽関係の情報公開度合いを数値化しました。

③ 環境学習実施率：100.0→100.0→100.0→100.0

小学生への環境学習への参加を表しました。

■事業者（市町村）の立場から見た指標

- (1) 事業の達成度を表す評価項目
- D 汚水処理人口普及率(%)：97.0→96.6→96.6→96.6 【県下統一指標】
衛生的で文化的な生活を、農集・浄化槽の整備率で表しました。
- ④ 農業集落排水施設事業接続率(%)：88.5→88.5→88.5→88.5
農集排への接続率を表しました。
- (2) 環境への貢献を表す評価項目
- E バイオマス利活用率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0 【県下統一指標】
汚泥の処理に経費がかかっています。汚泥の焼却・埋立からバイオマス利活用に転換し、経費削減に努めます
- ⑤ 汚泥負荷除去率：99.2→99.3→99.4→99.9
流入水質に対して、処理施設での除去（処理）された放流水の水質状況を表します。
- (3) 経営改善の状況を表す評価項目
- F 経営健全度(%)：52.0→66.0→76.0→100.0 【県下統一指標】
経営状態を、数値であらわしました。
- ⑥ 生活排水状況把握率：100→100→100→100%
村内全ての戸数について、生活排水の現状を個別に把握している指数を表します。

アクションプランへの取組

■利用者（住民）の立場から見た指標

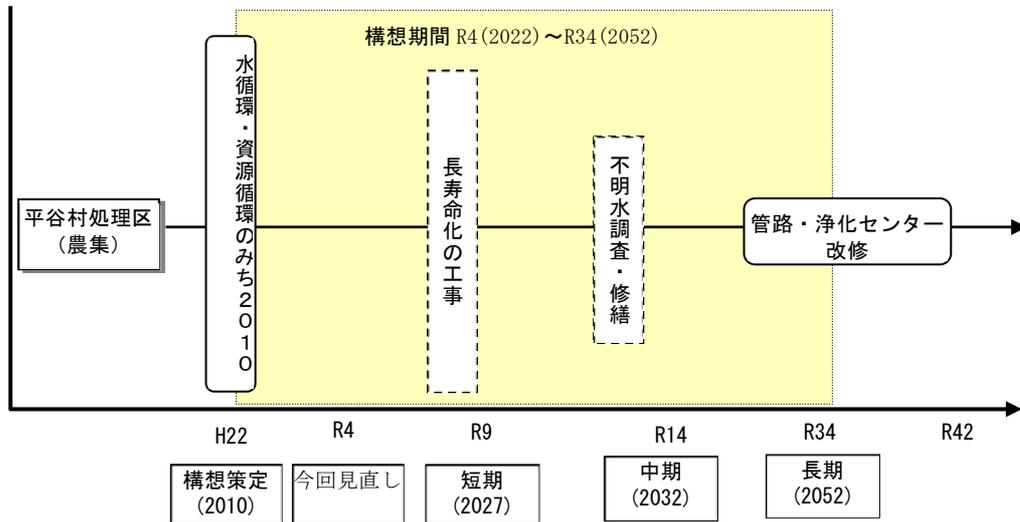
- (1) 暮らしの快適さと安全を表す評価項目について
- A 水洗化率を90%以上維持します。
- ① 高齢者の水洗化率を90%以上維持します。
- (2) 環境への配慮を表す評価項目について
- B 環境改善指数をできる限り上昇させられるように努力します。
- ② 放流水質基準に対して実際の放流水の水質状況を向上させていきます。
- (3) 生活との関連性を表す評価項目について
- C 農集、浄化槽の情報公開を進めていきます。
- ③ 小学生への環境学習への参加を100%を維持していきます。

■事業者（村）の立場から見た指標

- (1) 事業の達成度を表す評価項目について
- D 汚水処理人口普及率90%以上を維持します。
- ④ 農集排への接続率を90%以上を維持します。
- (2) 環境への貢献を表す評価項目について
- E バイオマスプランの見直しや、新規技術等の情報収集に努めます。
- ⑤ 河川に放流される水質の向上を目標に取り組みます。
- (3) 経営改善の状況を表す評価項目について
- F 経営改善のため、省エネ施設の導入や、経費節減に努めます。
- ⑥ 村内全ての生活排水の現状を常に把握していくように努めます。

施設計画のタイムスケジュール

平谷村では、経営計画に基づき構想の具現化及び目標達成のため、短期、中期、長期及び超長期にわたっての施設計画等のタイムスケジュールを以下のとおりとしています。



住民参画への取組

地域の保育園児、小学生を招待し浄化センターの見学を行い、汚水処理を学ぶ中で「水の大切さ」を学習しています。今後は、一般住民の方にも広く研修の機会を作ります。

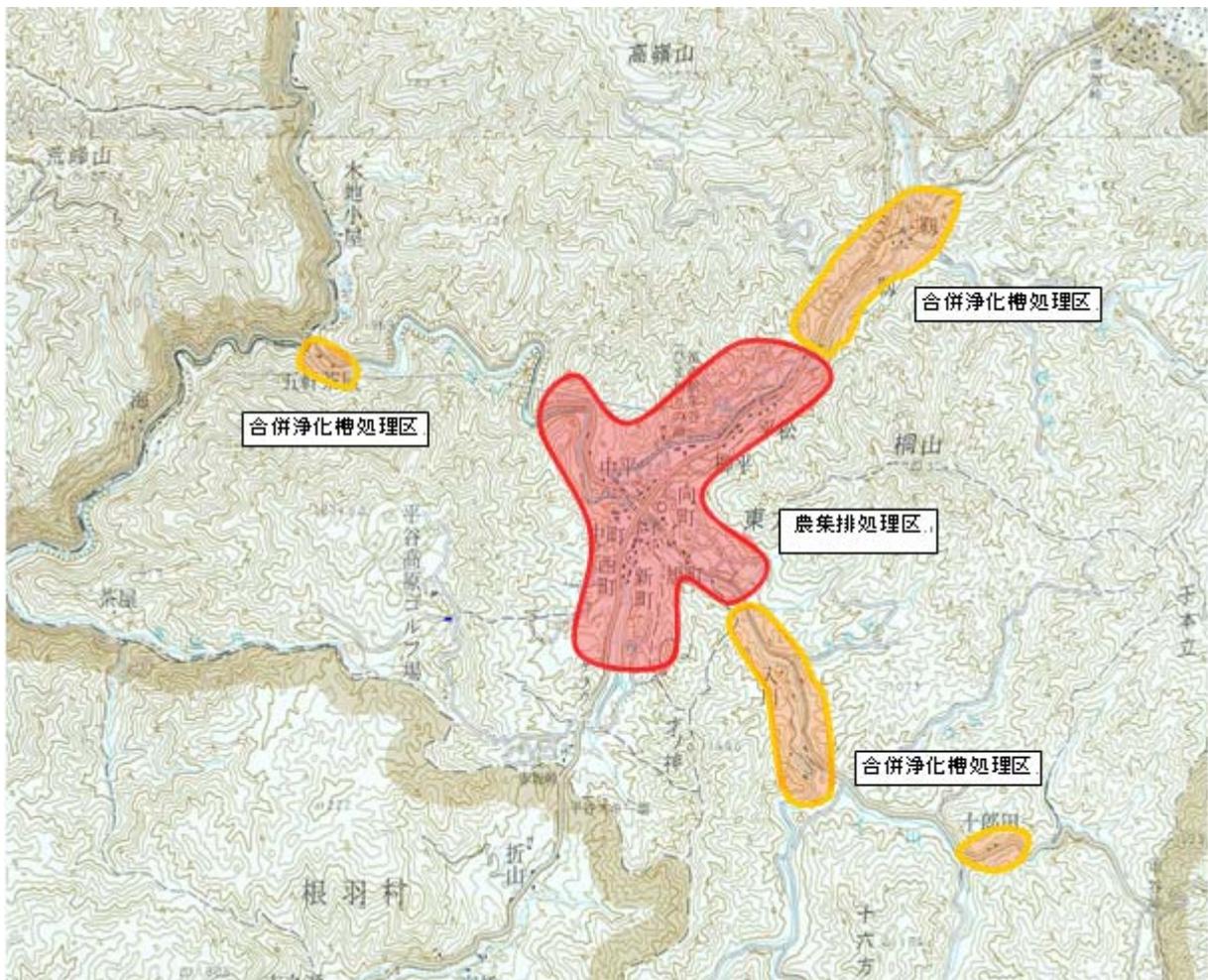
平谷村『生活排水エリアマップ2022』

令和4年度策定

平谷村の生活排水施設整備は、平成12年の農業集落排水事業から始まり、平成3年のエリアマップを基本とし、適宜状況の変化に対応した見直しを行い、整備が進んできました。

生活排水エリアマップ2022では、持続可能な生活排水施設の観点から経営計画を長期にわたって検討した上で、施設配置や統合などを含め将来のマップを作成しました。（なお、詳細図については、別添図を参照）

生活排水エリアマップ2022（概要図）



| | R2 | R9 | R14 | R34 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 人口 | 395人 | 388人 | 383人 | 368人 |
| 農集加入人口 | 351人 | 343人 | 339人 | 326人 |
| 浄化槽設置人口 | 32人 | 31人 | 31人 | 30人 |
| 水洗化率 | 97.0% | 96.6% | 96.6% | 98.3% |

アクションプランへの取組

(1) 未普及地域への取組み

- 農業集落排水への未接続世帯には、引き続き水洗化を呼びかけていきます。
- 住民懇談会等を開催し、住民の要望や意見を聞くと共に、処理施設の稼働情報や時折流れてくる異物等の情報を発信していきます。

(2) 浄化槽整備に関する取組み

- 浄化槽未設置世帯へは、引き続き設置を呼びかけていきます。
- 浄化槽台帳を整備し、維持管理状況と併せて管理できるようにしていきます。

防災・減災対策への取組

■地震対策へ向けた取組について

(1) 地震被害想定への取組

- 国道153、418号を重要な路線と位置付、特に耐震性の強化を図ります。災害発生時における被害調査、復旧時の対策に迅速に対応できるよう下水道台帳の整備を図る。維持管理については、施設の保守点検を計画的に実施し、不良箇所の発見に努めます。

(2) 地震対策の取組

- 電気設備、機械設備をはじめ、施設全般の保守点検に努め、機能保全のための対策を行います。常時保守点検に努め、機能保全を図るとともに、老朽管の改良等を行います。
- 農集排BCPの策定について検討を行います。

平谷村『バイオマス利活用プラン2022』

令和4年度策定

平谷村の生活排水施設系から発生する汚泥（バイオマス）は、阿智村と平谷村で組織される西部衛生施設組合が運営する「クリーンひる西部」に搬入され、その処理処分は建設資材としてセメント等に再利用されております。
 今後はバイオマスについて広域での利活用について検討します。

平谷村におけるバイオマス利活用プラン

■汚泥処理の現状

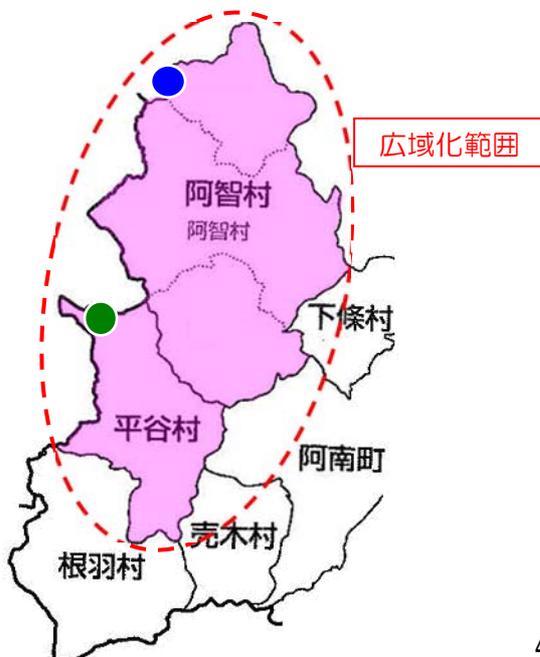
- ・阿智村・平谷村で組織する下伊那郡西部衛生施設組合が運営する「クリーンひる西部」に農集排等で発生した汚泥を搬入し、処理場にて脱水し場外搬出後建設資材・堆肥として再利用している。
- ・現状クリーンひる西部に搬入される量は、浄化槽汚泥2386kl、し尿610klで前年比1.75%増加しております。

平谷村バイオマス利活用アクションプラン

- 【短期】
 - ・汚泥処理を「クリーンひる西部」にて処理
 - ・脱水汚泥を建設リサイクル品化、堆肥化等へ（リスク分散）
 - ・汚泥処理の広域化への検討。
- 【中期】
 - ・汚泥処理を「クリーンひる西部」にて処理
 - ・脱水汚泥をリサイクル品化、堆肥化等へ（リスク分散）
 - ・汚泥処理広域化への検討。
- 【長期】
 - ・下伊那地区の広域汚泥処理の実施
 - ・利活用方法は、資源回収（リン）、エネルギー回収（ガス）、堆肥化

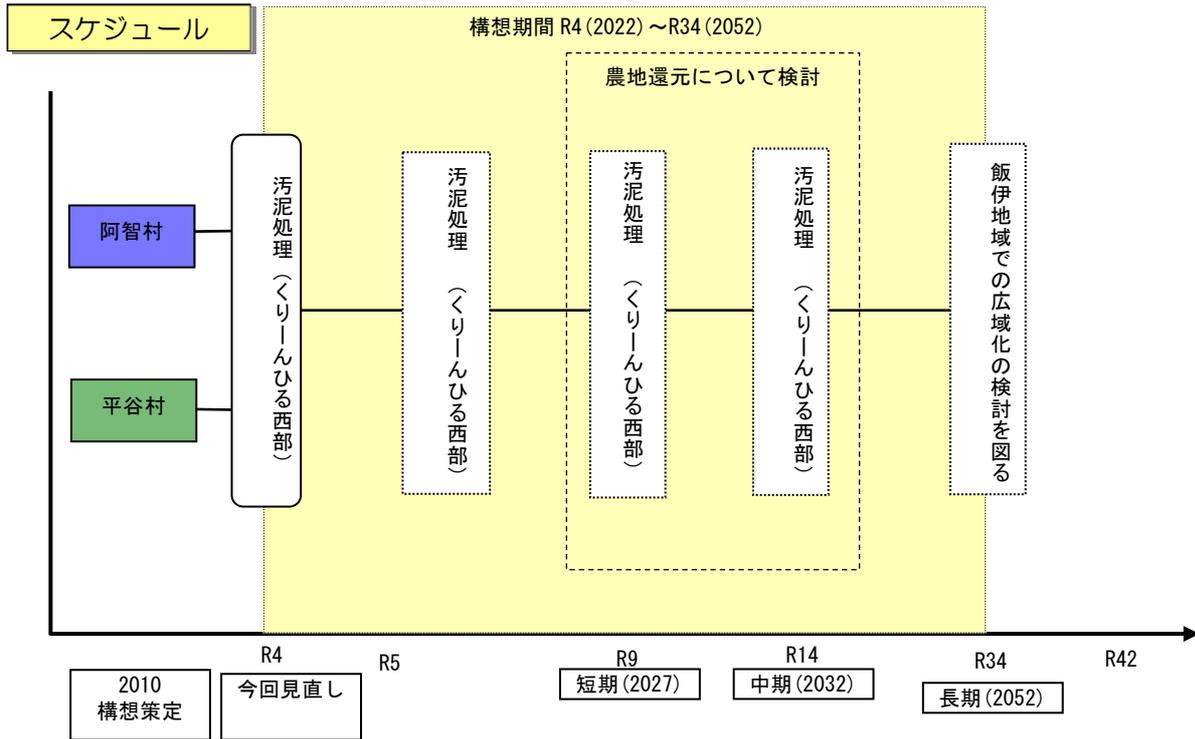
下伊那郡西部地域の広域的なバイオマス利活

「西部地域」バイオマス利活用プランマップ



■阿智村・平谷村で組織する下伊那郡西部衛生施設組合が運営する「クリーンひる西部」に生ゴミを搬入し、メタン発酵処理し再利用します。

■将来は、集落圏内の農地に還元できる方策を図るとともに、飯伊地域での広域的な連携についても検討を行います。



平谷村『経営プラン2022』

令和4年度策定

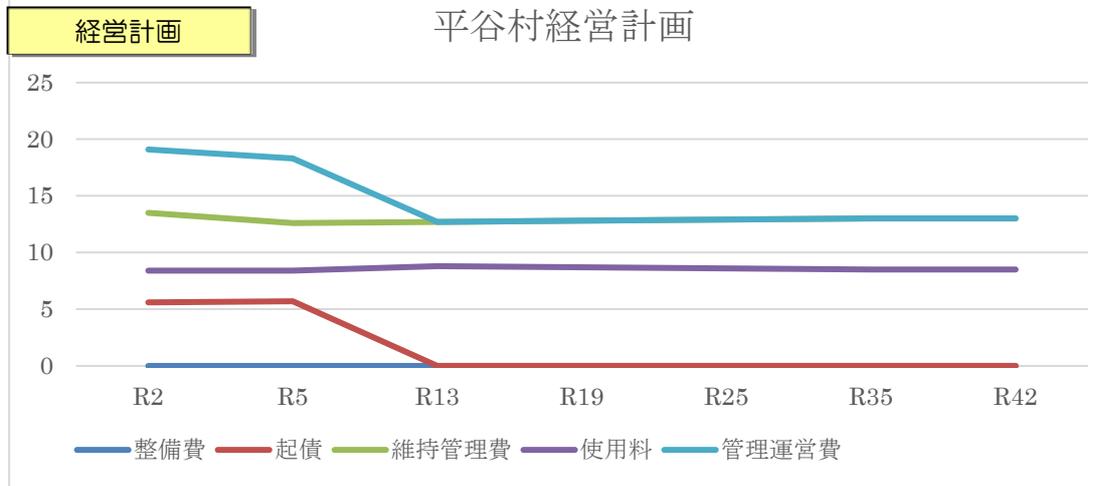
平谷村では、平成13年に農業集落排水が供用開始済みとなっています。その経営状況は、使用料収入の他、一般会計からの繰入により賄われています。
 このため、将来にわたって持続可能な経営を検討していく必要があり、2010年から50年先の状況まで見通した上で、構想の策定目標年度の30年後の令和34年度までにできる改善計画を検討し、「経営プラン2022」を策定しました。

平谷村における生活排水の経営計画

- 各事業者による経営計画の内容
 - ・経営に関する現状把握
 使用料収入によって維持管理費で賄っています。しかし、機器の更新、起債償還分等に当たっては、一般会計よりの繰入により賄います。
 - ・事業毎の長期的な収入予測
 人口の減により収入源が見込まれます。料金収入の値上等を検討し、経営に努めます。
 - ・50年後まで見据えた長期的な経営計画の策定
 人口の減により収入源が見込まれます。料金収入の値上等を検討し、経営に努めます。
- 管理経営の方法についての内容
 - ・現在の維持管理の方法と今後の見込み
 維持管理費用を抑えて、定期的に料金改定を行っていきます。
 - ・効率的、効果的な維持管理業務の検討
 修繕計画等の長期的な計画を立て、長期的な視野をもって削減を努めます。
 - ・維持管理業務の委託方法の検討
 入札等の検討
- 浄化槽管理の方法について
 - ・台帳の整備、パトロールを定期的実施、適切な維持管理に努めます。

平谷村経営計画アクションプラン

- 各事業者による経営計画のアクションプラン（短期5年間の実行計画）
 法的化も控えており、法的化令和6年度を目途に料金改定を実施し、経営改善を行います。



広域化による管理経営

広域化による管理経営について

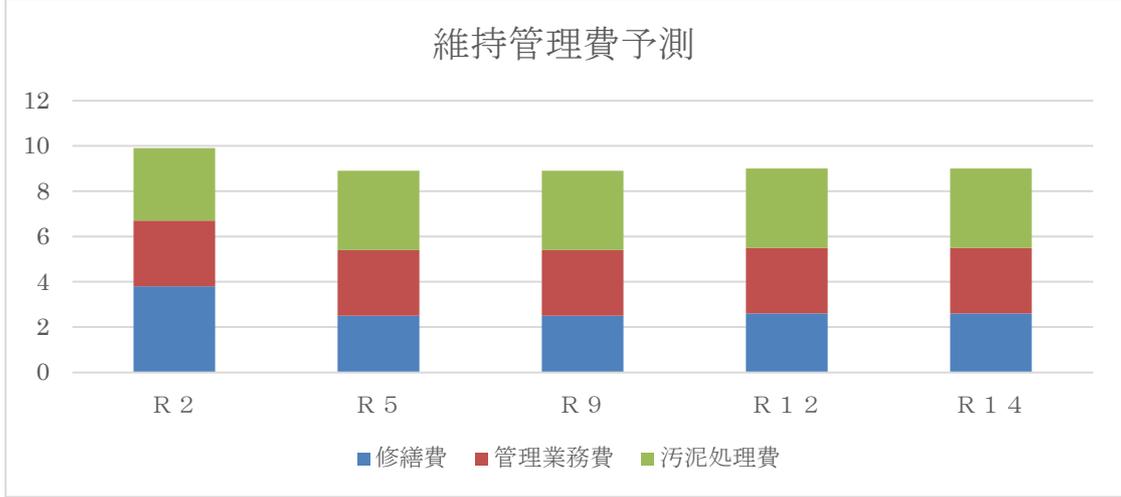
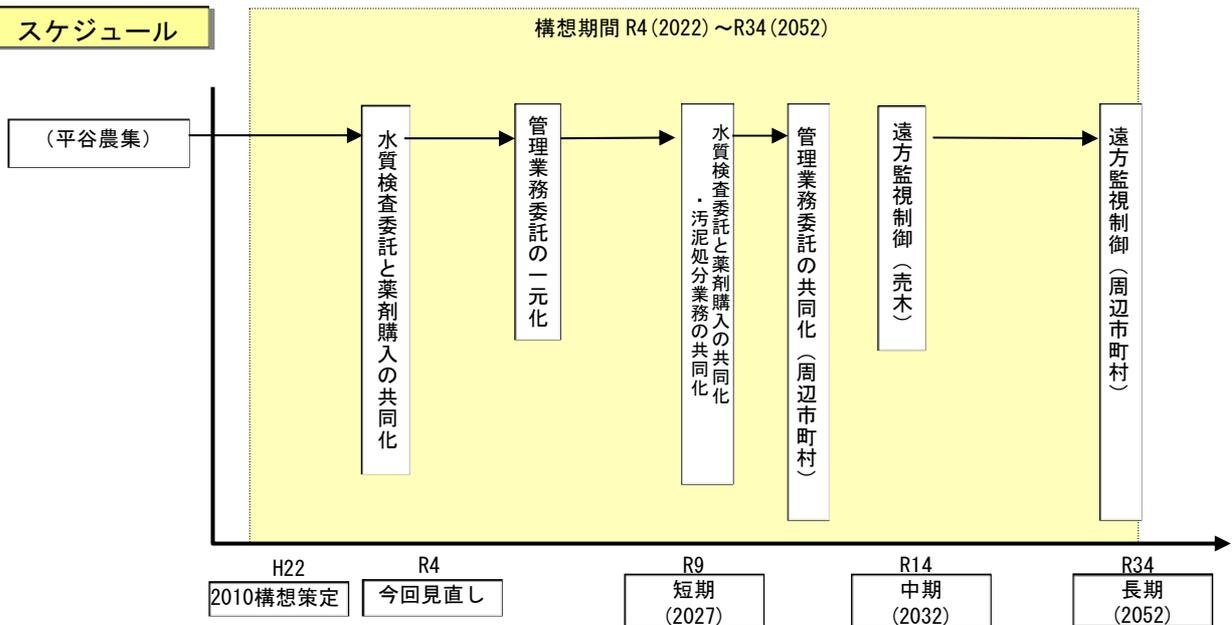
- 【短期】 汚泥処理等共同管理
- 【中期】 遠方監視制御装置を売木処理施設に導入
- 【長期】 遠方監視システムを他市町村と共同化

経営基盤の向上対策

■ 経営基盤を向上させるための取組について記載

- ・ 現状の把握（一人当たりの運営費、一人当たりの負担額など）
- ・ 使用料の適正化への取組
- ・ 集合処理区域での接続促進への取組
- ・ 経営の明確化への取組

スケジュール



現状把握と効果検証

■平谷村「水循環・資源循環のみち2015」構想の見直しに当たり、構想における現状把握と効果検証を行いました。その結果は次のとおりです。
また、その結果を基に今回見直しを行いました。

| 指標 | 現状把握 (令和2年度末現在) | | 検証結果 | 見直し方針 |
|----------------------|--------------------|------|---------------|-------------------------------------|
| | 計画 | 実績 | | |
| A 快適生活率 (%) | 92.4 | 97.0 | 目標を達成しました。 | 水洗化率を維持していくようにしていきます。 |
| ① 高齢者人口普及率 (%) | 100 | 94.2 | 目標を達成しませんでした。 | 目標達成に向けて力を入れていきます。 |
| B 環境改善指数 (%) | 75.0 | 48.0 | 目標を達成しませんでした。 | 目標達成に向けて力を入れていきます。 |
| ② 放流水基準に対する基準達成率 (%) | 100 | 90.7 | 目標を達成しませんでした。 | 目標数値を達成できるように、より良好な水と資源循環を目指していきます。 |
| C 情報公開実施指数 (%) | 66.7 | 100 | 目標を達成しました。 | 当初目標どおり進めます。 |
| ③ 環境学習実施率 (%) | 100 | 100 | 目標を達成しました。 | 目標どおり進めます。 |
| D 汚水処理人口普及率 (%) | 98.0 | 97.0 | 目標どおり進んでいます。 | 当初目標どおり進めます。 |
| ④ 農業集落排水施設事業接続率 (%) | 95.0 | 88.9 | 目標を達成しませんでした。 | 目標数値を達成できるように、より良好な水と資源循環を目指していきます。 |
| E バイオマス利活用指数 (%) | 100 | 100 | 目標を達成しました。 | 当初目標どおり進めます。 |
| ⑤ 水質保全貢献率 (%) | 100 | 99.2 | 目標を達成しました。 | 今後は汚泥負荷除去率に代えて放流水の水質状況を把握していきます。 |
| F 経営健全度 (%) | 93.0 | 52.0 | 目標を達成しませんでした。 | 目標達成に向けて力を入れていきます。 |
| ⑥ 生活排水状況把握率 (%) | 100 | 100 | 目標を達成しました。 | 当初目標どおり進めます。 |